

薬用植物園かわらばん

いま、こんな草木も楽しめますよ！
草木に囲まれ心も体もリフレッシュ・・・



2024年
12月9日
第168号



ヌマスギ（ヒノキ科）

園内中央部に紅葉している大木があります。細い葉が生えた短枝が鳥の羽のように見え、これが枝ごと秋に落ちることから、別名ラクウショウ（落羽松、中国語では落羽杉）と呼ばれる、北アメリカ東南部原産の落葉針葉樹です。明治時代初期に日本へ導入され、鑑賞用として公園、庭園や神社などに植栽されました。用途としては鑑賞用の他、建築材、家具材として使われますが、薬用としては、アメリカ先住民が、葉から調製した精油を民間薬として消炎、鎮痛、健胃を目的に、感冒や下痢の治療に使用していたり、葉、樹皮、枝からの滲出液を原料にして軟膏に調製し、マラリア、痛風、出血、関節炎の痛み止めや傷薬として外用していたそうです。

ハナトリカブト

（キンポウゲ科）

温室の北側の鉢植えでひと株から一輪だけ花が咲いています。中国原産の多年草で、別名がカラトリカブト。名前の由来は、鳥が兜を被ったような花の形状をしているから。冷涼な気候を好み、本州北部から北海道の山地に自生しています。かつて殺人事件にも使用された有名な毒草で、アイヌ民族が矢毒として使用していた植物ですが、漢方医学では乾燥させた根をウズ（烏頭）という生薬として利用します。しかしさすがに毒性が強いので、通常は加熱などで減毒処理した根を附子（ブシ）という生薬として、鎮痛、強心、利尿を目的として利用します。江戸時代では、名古屋城北側にあった御深井御薬園でトリカブト属植物を栽培していた記録がありますが、現在の名古屋は暑すぎて、このひと株も元気がなく、維持するのがやっとです。